

メルマガ「とちぎ通信」号外 ~2012年11月1日~

世界の栃木県人会のニュースを不定期にお届けする「とちぎ通信」号外。今回はイギリスにある英国栃木県人会が参加したイギリス最大級のイベント「ロンドンジャパンまつり」の様子について、会員の方が記事を書いてくれました。

2012 ロンドン JAPAN MATSURI

英国栃木県人会 ホツジ崇子

10月6日、英国栃木県人会は栃木県の特産物である「益子焼」のPRのため、ロンドンで開催された“Japan Matsuri 2012”に初参加しました。“Japan Matsuri”は、毎年夏に朝から晩まで行われるロンドンの一大イベントですが、日本ならではの食品や小物などを販売するストールや、焼きそばなどの食べ物を売る屋台が沢山立ち並びます。メインステージでは日舞、太鼓などの伝統芸や歌にカラオケなど一般の在英日本人やローカルの外国人が参加できる企画もあります。その他、武道コーナーもあり、柔道や剣道などのデモンストレーションが披露されますので、日本が好きな外国人にも大変好評なイベントです。毎年規模を拡大し、進化していく“Japan Matsuri”ですが、今年は、ロンドン中心地のトラファルガースクエアで行われました。トラファルガースクエアは、新年に大勢の人々が集まりのカウントダウンをするので、その様子は世界中に放映され、日本でも知名度の高い場所です。スクエア(広場)という条件や、西洋絵画を展示する有名な美術館であるナショナルギャラリーに隣接しているため、平日でも観光客の絶えない所でもあり、今年は晴天にも恵まれ、実に5万人もの人出がありました。



ロンドンの中心・トラファルガー広場に集まる人々

今回、栃木県の数ある名産品のなかで「益子焼」のPRを決めた理由は、「益子焼と英国の関係」がきっかけでした。私も驚きでしたが、英国と益子の交流は、(英国栃木県人会が生まれるずっと前の)約90年前に遡るそうです。この蓄積された長い友好関係が、今年実を結び、英国のSt Ives(セントアイヴス)という町と友好都市締結を結んだのです。栃木県の市町村としては初めてという「記念すべき年」ということもあり、英国栃木県人会として何かお手伝いできないかと考えた結果のコラボレーションでした。

企画段階では、益子焼を知らない人にでも、いかに一目で益子焼の魅力を伝えられるかが一番の課題でした。寿司やけんちん汁など、胃袋に直接訴えてくるストールの中で、どうすれば益子焼の素朴さの中にある重厚さ、また、モダンなデザインでありながらも伝統美があることをアピールできるかを考え、打ち合わせは夜遅くまで続けました。その結果、折鶴や日本の手拭いなどの飾りを施し、日本らしい雰囲気を出した、益子焼を引き立たせるストールが出来上がりました。

当日は、朝11時から夜9時まで、県人会の会員が入れ替わり立ち替わりストールに立ち、お客さんに益子焼の説明をしたり、ストールの外でも道行く人にも見えるように籠にいくつかの益子焼を入れ、集客にも努めました。そのおかげもあり、立ち寄られる人も多く、ストール内では益子焼の説明に追われていました。印象深かったのは、日本人はもとより、多くのイ

ギリス人や他外国人が興味を示してくれたことでした。皆さんに口々に益子焼の美しさを褒めて頂くと栃木県人である誇りを感じました。また、益子焼を知っている方や、実際に益子町を訪れた方々にもお会いできたのは、嬉しい驚きでもありました。



栃木県の伝統工芸品 益子焼をPRする会員のみなさん

最近ロンドンでは、高級ホテルにて緑茶を供にしたアフタヌーンティを提供したり、老舗デパートでも和風の食器を置いていたり、日本の物への意識が高まっております。そこで、現地の方に益子焼の美しさを知ってもらえ、相当数の販売が実現できたことに英国栃木県人会としても、非常に有意義な一日でした。今後も英国栃木県人会では、いろいろな形でイギリスにおける栃木県のアピールの一端を担っていければと、願っております。

英国栃木県人会

設立時期: 1980年代

会員数: 約40名

活動内容: 懇親会(年数回), ゴルフ大会

2012年はロンドンオリンピックに出場した日本選手団の応援を実施

2012年5月21日～8月20日まで全7回に渡って下野新聞にリレーエッセイ「五輪の街 ロンドンは今」を執筆

10月29日には佐野圭介会長が一時帰国に際し県庁を訪問されました。

佐野会長の産業労働観光部長表敬

左から山口次長、小林部長、元足利銀行ロンドン支店長、佐野会長、浅香国際課長

